

インタビュー

受講者と支援者の声を紹介します。



「うりぼう」に約2年通っているベトナム人のヴォー・フィー・ホアイさんは、「日本語を勉強して、もっと仕事ができるようになりたい」と前向きな姿勢をみせていました。また、支援者の男性は、「学習者の質問に分かってもらえる日本語で説明することが難しいです」とのことでした。

ブラジル人のイザベリ・ユミ・ダ・コスタさんは、「うりぼう」には通い始めたばかりで日本語がほとんど分からないため、場面に即した言葉を学んでいました。この日は医療に関する内容で、本物の頭痛薬などを準備していました。「日本語は少し難しいけど、この教室はとても好き、楽しいです」と話してくれました。支援者の松田由香里さんは、「外国につながる子ども」の学習支援教室「うりぼうくらぶ」の運営をしています。自身も家族の仕事の関係でブラジルに行き、言葉が分からなくて苦労した経験があるので、生徒さんの気持ちがよく分かるとのことでした。



「うりぼう」に通い始めて約1年だというベトナム人のレー・ディン・フィーさんは、「先生がやさしいから楽しい。日本語を覚えて、もっといろいろな仕事がしたい」さらに、「将来、自分の子どもにも日本語を勉強させたい」とうれしい言葉が返ってきました。教室運営をしている国際理解センター職員の田中久美子さんは「受講生の皆さんが、仕事の後の疲れた体で勉強しに来ていると思うと、時間を大切に、できるだけ楽しいものにしていきたい」と話していました。この日は豆と鬼のお面を使って、日本の行事の紹介もしていました。



丹波地域に暮らす外国人住民も参加した「国際理解フォーラム2018」



「地球っ子・地球市民プログラム」ブラジル人講師による小学校での出前授業



水・木曜日の夜間に開かれている日本語教室「うりぼう」



多言語の生活情報冊子「篠山市生活ガイド」

はじめの1歩

今後も、篠山市の外国人住民はさらに増加すると予想されます。同センターでは、英語・ハンブルグ語・中国語などの語学講座を受講することもできます。

市民の皆さんも、日本語教室「うりぼう」やイベントスタッフなどのボランティア活動に参加したり、語学講座で学んだりして、国際交流への第一歩を踏み出してみませんか。東京2020オリンピック・パラリンピックを間近に控え、篠山にも多くの外国人観光客が訪れることを期待して、市民レベルの国際交流ができるように、今から準備しておきたいものだと思います。

リポーター

かんなん ふみこ
河南 文子さん
(東古佐)

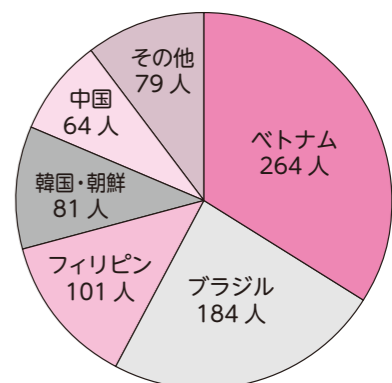


人が好き まちが好き 街かど Report

国際理解センターってどんなところ?!

多文化共生社会をめざして

交流から共生へ



外国人住民は773人

現在、篠山市内には773人平成30年12月末現在の外国人住民が暮らしています。そのうちの約3割がベトナム、次いで、ブラジル、フィリピン、韓国・朝鮮、中国の順となっています。

以前は、ブラジルが一番多かったのですが、介護福祉士養成校「篠山学園」の生徒数増加などの影響で、現在はベトナムが最多となっています。

3つの柱

そんな年々増加している外国人住民の支援活動を行われているのが特定非営利活動法人 篠山国際理解センター(SIUC)です。1995年に市民有志により丹南国際理解センターとして発足し、現在は外国人も

日本人も暮らしやすい、多文化共生社会の実現を目指し、国際理解教育事業・国際交流事業・外国人住民支援事業の3つの柱を中心に活動しています。

国際理解教育事業では、学校や公民館へ外国人ゲストティーチャーなどとともに「地球っ子・地球市民プログラム」を実施し、国際理解教育を推進しています。

国際交流事業では、世界井戸端会議や国際理解フォーラムの開催、ワロスカルチャーカフェエト店など、市民の皆さんが集まって交流できる場を提供しています。

外国人住民支援事業では、相談窓口の設置をはじめ、多言語の生活情報冊子「篠山市生活ガイド」やDVD「篠山市市民生活ガイド」を作成。だれもが安全で安心して暮らせるまちづくり、民族や国籍を超えた多文化共生の地域づくりを進めています。

外国人住民を支援する場

その外国人住民支援事業の一つとして、市内に住む外国人住民が安心して生活できるように取り組んでいるのが、日本語教室「うりぼう」です。教室は水・木曜日の夜に行われています。

私は1月31日に四季の森生涯学習センターで行われている木曜日のク

篠山国際理解センター事務局の皆さんと向井祥隆代表理事(写真右)



特定非営利活動法人
篠山国際理解センター

所在地 篠山市西紀支所
3階(宮田240)
開館日 月・水・金
9:00 ~ 16:00
TEL 590-8125
FAX 590-8126

ラスにうかがい、話を聞きました。この日はあいにくの雨で参加した受講者は3人。おかげで学習はそれぞれマンツーマンの授業となりました(取材の内容は、左ページの「受講者と支援者の声を紹介」をご覧ください)。